

クラブ活動報告

和歌山市動物愛護管理センターを訪問

和歌山ロータリークラブ

和歌山RC(会長 笹本 昌克)は、職業奉仕委員会と環境保全・社会奉仕委員会との合同事業として、本年度の優良企業訪問を4月27日(火曜日)和歌山市動物愛護管理センターにて行いました。

今回の企業訪問には普段より動物愛護活動をされている藤井秀香2640地区ガバナーにもご参加いただきました。当日はいつもより早い食事のあと、12時30分に例会場をバス二台(コロナ対策で参加者29名を二台に分散乗車)で出発、13時30分より二班(センター概要座学からのコースと施設見学からのコース)に分かれ14時30分までセンター内の見学を行いました。センター概要座学では獣医師であるセンター職員から、センター設立までの経緯と意義について説明を受けました。



このセンターは平成31年10月にオープンしたまだ新しい施設ですが、それ以前の施設は動物愛護というより、いわゆる殺処分を行う収容施設としての機能しかないものであったとのことです。収容数が少なく、ましてや猫の収容を考慮した施設ではなかったため、年間かなりの頭数が殺処分やむなしという状態であったという説明には参加者の顔が曇りました。

センター完成後は、施設の改善(収容頭数が大幅に増加)のうえに、職員の意識向上、努力、動物愛護ボランティアの方々の協力もあり、年間数百とあった殺処分が犬に関してはゼロに、猫に関しても数十頭にまで減少することができたという話には参加者の顔が晴れやかになりました。特にボランティアスタッフの活動なくしてこの数値の実現は不可能であり、中心的ボランティア団体WITH DOGさんへのロータリークラブからの支援は本当にありがたいと感謝の言葉をいただきました。

それに対し、今年度「愛を深めよう」のスローガンのもと新規事業として和歌山市犬猫殺処分低減化支援事業を始められた笹本会長より見学のお礼と激励として、犬猫の大好物である「チュール」が寄付されました。施設見学コースでは、清潔で収容スペースも大きく犬猫の福祉が大きく向上した施設を見ることができました。ただの殺処分場という以前の施設から、一匹でも多くの命を救う場に変貌を遂げた新しいセンターに今後の和歌山市の動物愛護の明るい未来を見た有意義な見学会でした。藤井ガバナーからも動物愛護活動は今までのロータリークラブにはない視点で、今後発展させていくべき事業だ、とのお言葉を頂戴しました。